



# 御成門だより

令和2年6月1日 発行  
第 3 号  
発行責任者  
港区立御成門中学校  
校長 佐藤 太

## 教育目標

「豊かな心とたくましい体をもつ生徒」「自ら計画し進んで学習する生徒」「他人の立場を尊重し仲良く協力できる生徒」  
〒105-0003 港区西新橋3-25-30 電話03-3436-3551 FAX03-3436-3552 E-Mail onarimon-js@minato-kyo.ed.jp

## 初 心

校長 佐藤 太

緊急事態宣言が解除された6月。いよいよ学校生活の再開です。5月の休校期間には、生徒の皆さんが「まなびポケット」のクラスチャンネルに、毎日の生活や学習を書き込んだ先生方とのやり取りの様子を私も拝見させてもらいました。生徒の皆さんやお家の方が大変な中であっても、元気に頑張ってる様子を伺い知ることが出来て、とても嬉しかったです。

さて、4月から2か月が過ぎました。“初心、忘るべからず”という言葉があります。室町時代に能を芸術の域にまで高めた世阿弥が、能の極意を記した著「花伝書」に残した言葉です。私は、この言葉のもつ新鮮な響きが好きです。事あるごとに肝に銘じて自分を鼓舞したり、決意した時の原点に立ち返れるからです。

本来なら3年生、2年生の皆さんは4月の始業式から、1年生も4月予定だった入学式を機に、自分で立てた目標や決意を、御成門中学校の場で、その達成や実現に向けて行動に移していたことと思います。

ところで、2か月前の皆さんの目標や決意だった初心は、どのようなものだったのでしょうか。3年生は「自分の進路に向けてしっかり努力したい」、2年生は「頼もしい上級生になって友達の輪を広げたい」1年生は「部活や新しい勉強を頑張りたい」など、皆さん一人一人が自分の“めあて”や“目標”があったと思います。学校再開の今、その初心を改めて確認したり、気持ち強くもち学校生活を踏み出してください。6月の今は、4月当時の“目標”を軌道修正する人もいるかもしれませんが、めざしたい事、やるべき事など決意を確かなものにして悔いのない日々を送ってほしいと思います。(ちなみに私の4月の初心は、一日一日の今を全力で生きるです。理由は、その力の継続が未来の自分と社会を創っていけると考えたからです。)

また、私は、休校期間中に色々なことを考えました。その中の一つが、人間には「想像力」と「創造力」が大事だと思ったことです。感染が拡大しない世の中になるためには、自分がどうすればよいかを「想像力」を働かせて行動しなければならないと思いました。例えば、自分は体調が良いから海に行きたい、海なら誰にも迷惑にならないと行動することは感染拡大の危険を増やす可能性は勿論、他人の迷惑にもなる行為だと想像するようになりました。海へ行く電車の移動中のどこかの通過点や立ち寄った場所で予期せぬ密が発生したり、同じように海は大丈夫と考えた誰かが多く集まり、密を作りかねないこともあるからです。

そして、「創造力」では、自分に都合よくいかない色々な状況があった時でも、その現状にただ飲み込まれていくのではなく、自分で工夫してチャレンジしたり、新たに捉え直して取り組めば、物事が別な角度から前向きに進んでいくということも、強く実感した生活でした。

今日から始まる安全第一での御成門中学校での生活と学習も、私達が新しく創造していく世界の一つです。そして、その創り手は生徒の皆さん一人一人です。私は、前を向いて取り組む皆さんの創造力に期待しています。再開後の不安があるかもしれませんが、焦る事はありません、大丈夫。一人一人が健康を意識して行動し、一つ一つ新しい生活に慣れながら仲間と共に励み、実り多き学校生活を着実に創り上げていきましょう。何かあったら遠慮なく先生方・主事さん方に声をかけたり、相談してください。共に頑張りましょう。

保護者・地域の皆様、休校期間中は、多くのご理解とご協力をいただきました。お陰様で学校の再開が出来ます。本当にありがとうございました。これからも本校の教育活動へのご支援をよろしくお願い致します。